

「現行の保険証を残そう！」

～茨城から3,398筆の請願署名を国会に提出～

保団連は11月9日、16日、30日に「健康保険証の存続」を求める国会行動を実施。茨城協会では11月16日に開催された国会行動に参加。県内158医療機関と県民から寄せられた現行の保険証存続を求める3,398筆の署名は、青山大人衆議院議員、小沼巧参議院議員、堂込麻紀子参議院議員を通じて国会に提出された。

健康保険証を存続させることが必要

今年8月8日に公表された「マイナンバーカードと健康保険証の一体化に関する検討会」の最終とりまとめでは、健康保険証の代わりとして交付される予定の『資格確認書』について、当分の間はマイナ保険証を保有していない者、その他保険者が必要と認めた者については本人の申請によらず保険者が交付するとしている。これは、2024年秋以降の運用について、マイナ保険証のみでは不十分と認めたものであり、予定されている資格確認書の発行を行わなくとも従来の健康保険証を存続させることで問題は解決する。

現状では、医療機関窓口での様々なトラブルが解決に至っておらず、国民はこのような状況下でマイナ保険証を積極的に活用していない。厚生労働省が発表した今年4月からのマイナ保険証利用率

は、4月の6.3%から10月は4.49%に低下している。この数値はマイナ保険証に対する客観的評価と考えられる。現状では健康保険証を存続させることが必要であり、協会では本署名に取り組んでいる。

今回、茨城から3人の地元国会議員に請願署名をお引き受けいただいたが、全国では127人の国会議員が署名引受議員となっている。

なお、同日の国会行動では、来年度の診療報酬大幅引き上げについても要請を行った（詳細は2面に掲載）。

※「現行の健康保険証を残してください」請願署名は、今後も継続して取り組んでまいります。各医療機関窓口等での署名に引き続きご協力をお願いいたします。

保険でより良い歯科医療の実現を求める 歯科決起集会開催 - 300人超が参加、国会議員16人がかけつける -

「保険で良い歯科医療を」全国連絡会は10月26日、保険でより良い歯科医療の実現を求め「10.26 秋の歯科決起集会」を国会内で開催した。

本集会は今年1月から実施している歯科請願署名の要請3項目（窓口負担割合の引き下げ、保険適用範囲の拡大、十分な予算確保）の実現を求め開催したもの。集会には、会場とWEBをあわせて約350人が参加し、国会議員も16人が会場にかけつけた。

集会では、参加した国会議員からの応援メッセージのほか、各地での歯科請願署名の取り組みや後期高齢者窓口負担割合2割化に反対する署名運動の取り組み、歯科技工問題、子どもの歯科矯正保険適用拡大の取り組みなどが報告された。

その中で、歯科技工士の現状について仙台歯科技工士専門学校校長の伊藤多佳男氏は「何年も前から歯科技工士の状況は変わっていない。私

が声を上げたところですぐに現状が変わるものではないことは理解しているが、だからといって私が声を上げない理由にはならない」と前置きしたうえで、歯科技工界の窮状を訴えた。伊藤氏は「『歯科技工士がいなくなったら歯科医療は成り立たない』ということが本当ならば、課題は山ほどある」とし、歯科技工士養成学校の閉校が相次いで起きていること、歯科技工士の多くがワーキングプアに陥っていることなどを課題としてあげた。また、診療報酬の引き上げと歯科技工士の収入増に直結する制度整備、意欲のある若者が歯科技工士を続けられる労働環境の整備などを訴えた。

集会当日は、茨城協会の飯塚俊夫理事、高城勇揮理事、事務局が茨城県選出国会議員の事務所を回り、歯科技工問題の窮状や歯科診療報酬の引き上げを訴えた。

なお、今回集約された署名は、青山大人衆議院議員を通じて国会に提出された。



青山 大人衆議院議員



小沼 巧参議院議員



堂込 麻紀子参議院議員